

研究テーマ『 個が生きる学び ～数学的な表現力を高めるために～ 』

○ 年・組 第1学年1組(34名)、2組(33名) 第1学年1組2組教室 教科等(算数)

○ 単元(題材)名 ひきざん

○ 単元目標: 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

○ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が、「10といくつ」という数の味方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。	① 数の構成に着目し、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。	① 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

○ 単元(題材)の指導と評価の計画(10時間)

時間	主な学習活動	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2	11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。	・知① (観察・ノート)		
3 4	前時までの学習を踏まえ、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。		○思① (観察・ノート)	・態① (観察・タブレット・ノート)
5 (本時) 6	11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。		○思① (観察・ノート)	
7 ～9	減法の計算能力を伸ばす。	・知① (観察・ノート)		・態① (観察・タブレット・ノート)
10	学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じ、価値づける。	・知① (観察・ノート)	○思① (観察・ノート)	・態度① (観察・タブレット・ノート)

(本時5/10時)

○ 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法（減々法）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。【思・判・表】

(2) 本時の評価規準

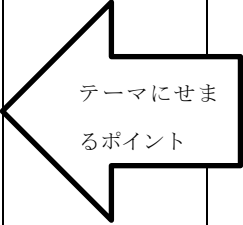
- ・被減数、減数の大小に関係なく、10のまとまりから1位数をひくことに着目して計算の仕方を考え、言葉やブロック操作等によって説明している。【思・判・表】（観察・タブレット）

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・教科書：あたらしいさんすう 1（東京書籍）
- ・タブレット（キャンバ）

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び理解の 不十分な児童(生徒)へのてだて等 指導(◇)・支援(○)・学習評価(☆)	評価規準(評価方法)
5分 導入	<p>学習の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>おかしが12こあります。 3こたべると、のこりはなんこですか。</p> </div> <p>本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>けいさんのしかたをかんがえよう。</p> </div>	<p>◇モニターに具体物を提示し、興味関心を高める。</p>	
35分 展開	<p>見通す(クラス全体で)</p> <p>T「昨日の問題と違う所は？」</p> <p>C「数字」 C「おかし」</p> <p>T「同じところは？」</p> <p>C「のこりをきいている」</p> <p>T「では、式は？」</p> <p>C「$12-3$」</p> <p>T「昨日までの計算の仕方だと、どこから取っていた？」</p> <p>C「10のかたまりから」</p> <p>T「昨日までは10のまとまりからとったけど、他の取り方はあるかな？」</p> <p>自力解決する。(ノートまたはブロック)</p> <p>ノートに考えを書く。</p>	<p>◇前時との違い、同じに着目させる。</p> <p>◇減加法、減々法どちらの考えも認める。</p> <p>○絵や文字などでわかりやすく工夫できるように声掛けをする。</p> <p>○実際のブロックの方がやりやすい児童にはブロックですよう促す。ブロックをノートにかいて考えを書くことを伝える。</p> <p>☆自分の考えをノートに表している。</p>	<p>・思①(タブレット・観察等)</p>

	<p>ペアで意見交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを比べる。 <p>全体で意見交流をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを比べる。 <p>自分なりの理解・結論をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えの似ているところ、ちがう所を考える。 ・どちらも10と2にわけているのは同じ。 ・10からとるのか、ばらからとるかが違う。 	<p>◇ノートを提示しながら、自分の考えを話させる。</p> <p>○自分が言えなくてもしっかりと友だちの意見を聞くようにする。</p> <p>◇どのように答えを出したのか、キャンバの付箋機能を使って、クラス全体で共有できるようにする。</p> <p>○自分と同じ考えや違う考えを見つけられるように声掛けをする。</p>	 <p>テーマにせまるポイント</p>
5分 ま と め	<p>振り返りをする。</p> <p>感想やわかったことを発表する。</p> <p><u>期待する振り返り</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックをうごかしてけいさんできた。 ・けいさんのしかたをしっかりと考えられた。 ・ばらばらからひいてもけいさんできた。 ・10のかたまりからじゃなく、2こからひいてもけいさんできた。 	<p>◇めあての考えを再確認する。</p> <p>◇本時の感想やわかったこと等を発表して学習を振り返る。</p>	

(5)具体的な評価場面における判断のポイント

評価の観点	判断するポイント (A・B)
思考・判断・表現	<p>■十分満足できる (A) と判断するポイント</p> <p>減加法、減々法を用いて図や絵で表現し、説明している。</p> <p>■おおむね満足 (B) と判断するポイント</p> <p>図や絵などによって10のまとまりから1位数をひくことができている。</p> <p>■支援が必要と判断される児童への手立て (C)</p> <p>ブロックの操作を教師と一緒にしながら計算の仕方を考えている。</p>